



心が動く時、やりたいと思う。
 仕事は楽しくなかつたら、
 自分らしく生きれない！

「できるとかできないとかじゃねえんよ。やるんよ」と言う先輩の言葉は私のライフワークの指針。物作りから学ぶ生き甲斐を見つけたんですと語るLeeさんにお話を伺いました。



備前表町皮革美術
 シューリベアマスター
 Leeさん
 (リー)

岡山市出身。幼少期から工作をする事が大好きで手先が器用。仕事の合間にバンド仲間とライブに出演するアクティブなプロフェッショナル。

岡山市北区柳町1-3-5 086-212-1210
<http://bizen-omotecho.com/>

大好きな父の他界

父は人付き合いが良くお酒好き。スキーの国体選手でスポーツマンの反面備前焼や美術品の鑑賞が好きで、良く個展や展覧会に連れて行ってもらいました。その父が高校1年生の時に他界。父と一緒に仕事をする事が夢だった僕は、正直目標を見失ってしまいがち。前が見えなくなっていました。そんな時、高校2年生の文化祭でライブでギターをする事がきっかけで、生きる希望が見え始め、本気でプロミュージシャンを目指し出したのがこの時期でした。むしろプロになることしか考えてなかったと言つても過言ではなかつたです。高校卒業後は、京都の音楽学校に進学。その時の学生生活が自分の原点になつたと思つてます。

音楽活動と両立

京都から帰って来てから間もなくは、バンドは複数(サポートも含む)掛け持ちし、がむしやりに音楽活動に没頭し、岡山中のライブハウスに出演していました。と同時に物作りがしたいと言う欲求も強く、自分に合う仕事を探していたところ、知り合いの伝手で、鉄工も木工も内装も出来る職人が共同経営している会社に巡り会う事ができ、音楽活動と大好きな物作りの両立ができるようになりました。そして、音楽活動が実を結び、バンドでCDの全国流通、全国ツアーができるようになりました。その後バンドが解散したのをきっかけに先輩の職人と独立しましたが、音楽で有名になる夢が諦めきれないまま、仕事も音楽活動もどちらも中途半端な時期が数年続き、これではダメだと一念発起して上京しましたが、それも上手くいかず、また岡山に帰り地元のライブハウスで仕事をしていました。それでもまだ物作りの欲求が抑えきれず今の靴の修理の仕事に巡り会つたのです。

母の遺した言葉

靴の修理はやったことはありませんが、出来上がった靴を見て心がワクワクしてのめり込んでいきました。修理を頼むお客様の大切な足元のおしゃれを任されたような気分になり『人の役にたつ』の本当の意味みたいなものを初めて気付かせてもらった気がします。昔、母とはいつも折り合いが悪く、喧嘩ばかりしていました。そんな母も55歳と言う若さで他界。何も親孝行らしいことは何一つできていません。生前の事を知る人から母の事を聞く機会があり、人の為に生きた人と言う母の生き方に今更ながら救われて、産んでくれてありがとうと言いたいと思います。彼女が遺した言葉と自分の人生を照らし合わせた時に、少しずつですがその真の意味に気が付きました。



現在完成間近の靴。履きやすくリメイクした中敷が腕の見せどころ。